

女性・男性特有の健康課題に なぜ、取り組むべきなの？

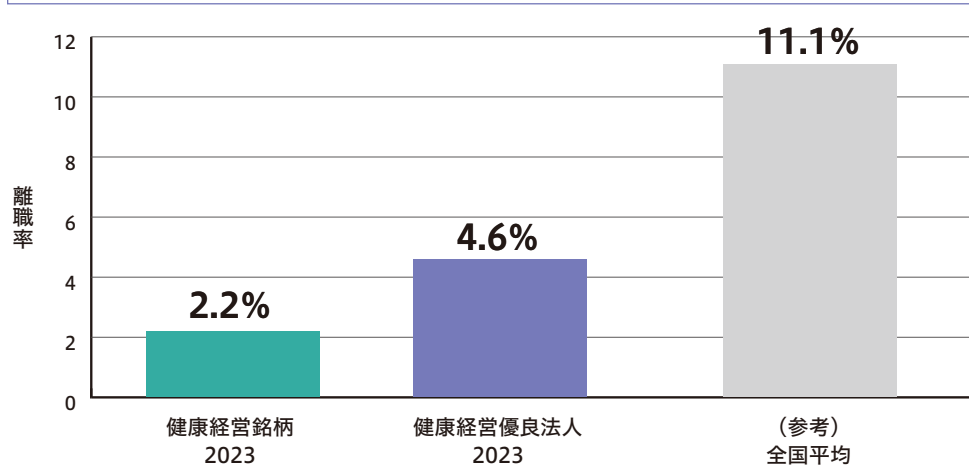
健康課題と仕事の両立推進の取組みには、従業員の健康維持や働きやすさ向上のみならず、組織にとっても様々なメリットがあります。4つの視点でみていきましょう。

▶ 1, 優秀な人材の確保・定着につながるから

健康経営度が高い企業ほど、離職率が低い傾向にあります(図1)。また、学生の9割以上が学校への「生理休暇」の導入に賛成する(※1)など、これから社会に出る若者達の多くが、痛みや辛さを我慢せず過ごせる環境を就職先にも求めるでしょう。

※1 2021年一般社団法人日本若者協議会#みんなの生理「学校での「生理休暇」についてのアンケート」より

図1 | 健康経営と離職率

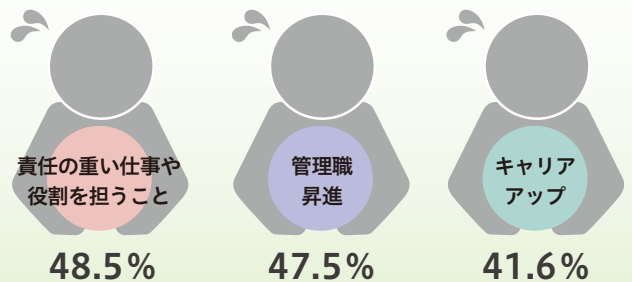


出典/経済産業省「健康経営の推進について」資料内の「健康経営銘柄、健康経営優良法人における離職率」より

▶ 2, 女性活躍推進につながるから

女性特有の健康課題(月経関連の症状やPMS、更年期障害等)を抱えることが、仕事の生産性だけでなく、女性のキャリアアップや昇進意欲にも影響を及ぼしています(図2)。健康課題への対応強化は女性の働きやすさや意欲向上につながり、女性活躍推進にも好循環が生まれます。

図2 | 健康課題を抱えることで難しいと感じること



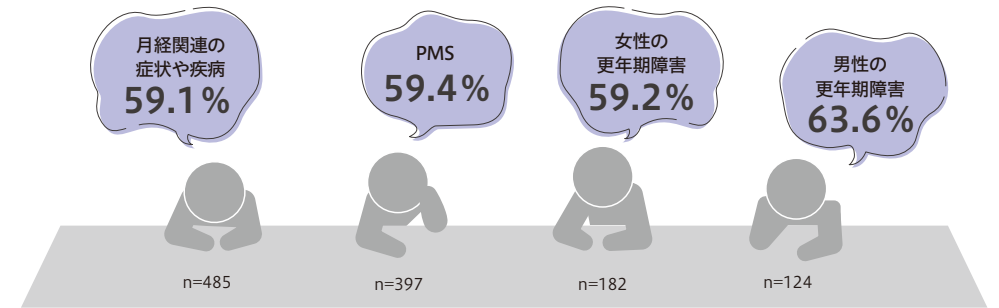
n=554

※調査対象者:福岡市内で働く20~60代女性 出典/福岡市(※)

▶ 3, 仕事の生産性が高まるから

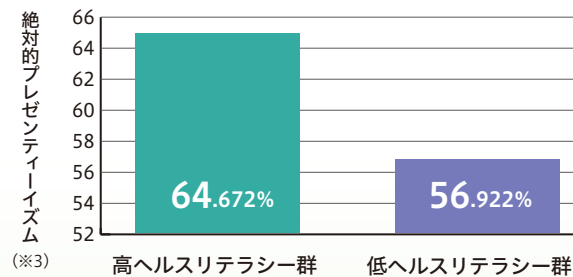
健康課題を抱えることで仕事のパフォーマンスが通常時の半分程度まで低下することが明らかです(図3)。また、ヘルスリテラシー(※2)が高いほど、仕事のパフォーマンスが高いというデータもあり(図4)、職場全体で健康課題そのものを「知る」ことも生産性向上につながるでしょう。

図3 | 痛みや症状がある時の仕事の出来 (通常時の仕事の出来を100%としたとき)



※調査対象者:福岡市内で働く20~60代の男女 出典/福岡市(※)

図4 | ヘルスリテラシーと仕事のパフォーマンス



(※3)

出典/日本医療政策機構「働く女性の健康増進に関する調査2018」

※2 ヘルスリテラシーとは、健康を促進し維持するため、必要な情報にアクセスし、理解し、活用していくための能力。

※3 プレゼンティーズムとは、欠勤することなく出勤はしているものの、身体的・精神的な不調時によるパフォーマンスの損失のこと。本グラフにおける絶対的プレゼンティーズムは「WHO-HPQ日本語版」を使用し、得点が高いほど、仕事のパフォーマンスが高い(プレゼンティーズムの傾向が低い)ことを示す。

▶ 4, 誰もが働き続けやすくなるから

今までの職場環境や制度設計が、実は「健康で若い男性」に最適化されてきたために、男性と身体的特徴が異なる女性はもちろん、シニア男性や疾患を抱える人も、働きづらさを感じている可能性があります。健康課題対応は誰もが働きやすい職場環境整備につながります。

※出典はすべて令和4年度福岡市「健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査」より

